

第4回

目が見えない・見えにくい私だから考えついた

“とっておきのアイディア”

コンテスト



募集テーマ：日常生活で使うもの
(非日常生活で使うものも含む。)

入選作品

表彰式

令和元年11月3日10時30分

すみだ産業会館(「サイトワールド2019」)

(東京都墨田区江東橋3-9-10 JR・外半蔵門線:錦糸町駅下車 丸井錦糸町店8・9階)

社会福祉法人 日本点字図書館／公益財団法人 共用品推進機構

ごあいさつ

この度は、「第4回 目が見えない・見えにくい私だから考えついた“とっておきのアイデア”コンテスト」に、たくさんのご応募をいただきありがとうございました。

お蔭様で盲学校の部では43名、50作品、一般の部では33名、55作品の応募をいただきました。

アイデアの内容は、盲学校の部では、学習を主体的に深く進めるためのアイデアや、日常生活をさり気なく支えてくれる夢のあるアイデア、不便さを劇的に解決してくれるユニークなアイデアなど様々な作品がありました。一般の部では、日常生活の不便さを解消するために、既存の製品やアイデアにオリジナルを加える作品が多く見られました。

それぞれのアイデアは、移動、衣服、医療機器、家電製品、金融、光学機器、住宅設備、情報、食品、書籍、日用品、文房具、玩具など、広い分野に亘るものでした。

審査は審査員会にて厳正に行い、盲学校の部、一般の部、共に以下の3つの視点から、最優秀賞(盲学校の部1名、一般の部1名)、優秀賞(各部2名ずつ)、入賞(盲学校の部4名と1団体、一般の部4名)を選定いたしました。

1. 夢のあるもの(非現実的なものであるが、夢があり希望が持てるものなど)
2. 実現可能性があるもの(实际的であり、製品化可能なもの、あるいは少しの工夫で製品化できそうなものなど)
3. ユニークさ(斬新さ)があるもの(アイデアの内容がユニークであり製品化できたら、楽しみの持てるものなど)

今回、盲学校の部で最優秀賞に輝いたのは埼玉県立特別支援学校塙保己一学園小学部1年生の作品「らくらくる一ぺ」でした。年少児から小学校低学年の弱視の子供達に使いやすいように考えられた作品でした。

一般の部の最優秀賞は、視覚障害者の日常の不便さを解決し、より多くの人に使いやすくなる「手袋になるハンドクリーム」でした。

来年も継続してアイデアコンテストを開催する予定ですが、より具体的で実現可能性が高いものや、ユニークで斬新でありながら豊かな想像力が感じられるアイデア作品が集まることを期待しています。

目が見えない・見えにくい私だから考えついた
“とっておきのアイデア”コンテスト事務局

社会福祉法人日本点字図書館
公益財団法人共用品推進機構

盲学校の部 《最優秀賞》

らくらくるーペ

平山(ひらやま)めぐみさん

(埼玉県立特別支援学校塙保己一学園 小学1年生)

書見台を利用し読書時にドーム型ルーペを使う際、手で抑えながら読むと手が疲れるため、プリントもしくはマグネットで貼り付いて、軽い力で移動が、子供でもできるようなものです。

対象は、字を読む練習をはじめたばかりで、「読むこと」に集中したい弱視児や、書見台のように、ななめになっている状況で支えるのは大変だと感じる拡大読書器利用前の子供です。

本だと、マグネットで付ける(支える)のは難しいので、書見台上部からつり下げて、ふりこのように移動させて利用します。

みたい箇所に手をはなしてもとどまってくれるドーム型ルーペ。

らくらくるーペ



ほんごもあけな
こもいいるー
ほしいです
かいかよめくみ

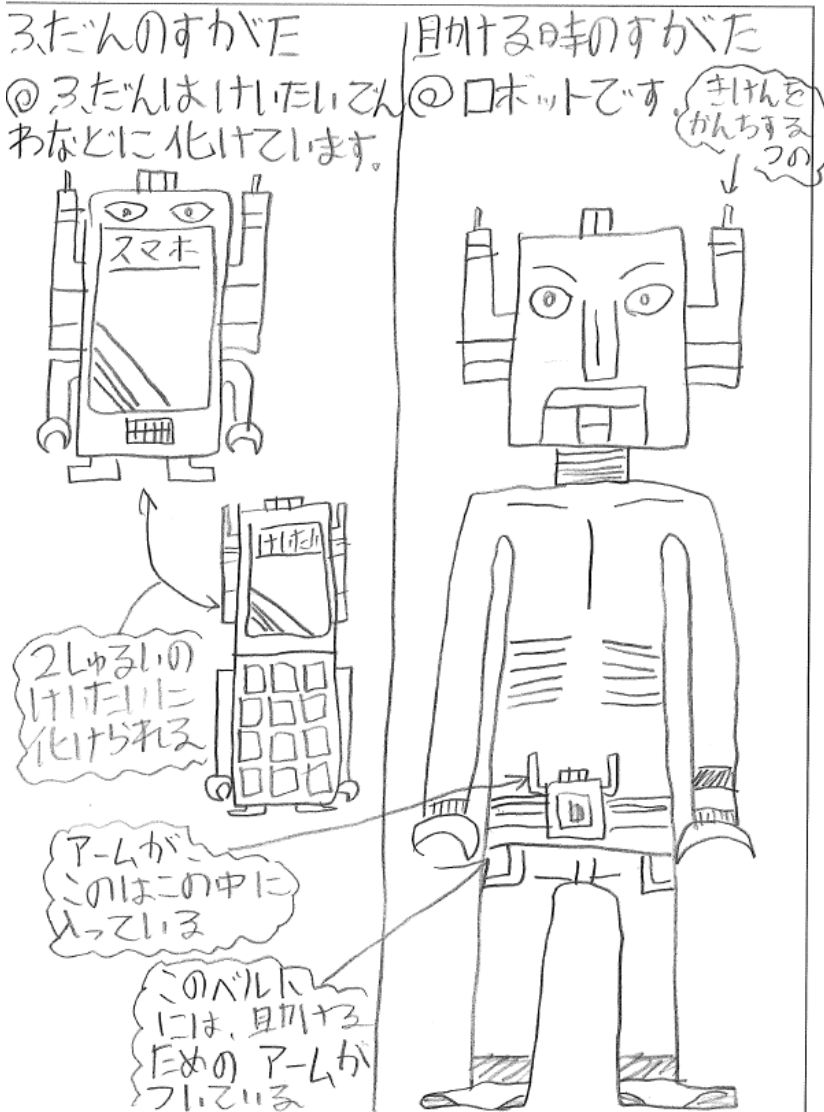
《優秀賞》

ちゅういくん(食事中注意ロボット)

福富鼓哲(ふくとみこてつ)さん

(筑波大学附属視覚特別支援学校 小学5年生)

このロボはみそしるやスープ、お茶などがこぼれそうな時におさえてくれるロボットです。
ふだんはスマホなどに化けて生活しています(親にばれません)。



《優秀賞》

ユニバーサルデザインを活用した飲料

杉水流(すぎずる)さくらさん

(筑波大学附属視覚特別支援学校 小学6年生)

理由とアイデア紹介

私はユニバーサルデザインを利用した、お茶、水・ジュースなどを手で触って見分けられる!というアイデアにしました!!

理由は目の見えない人、弱視の人でも、「さわる」だけで見分けられると便利だからです。

説明

例えばお茶だとキャップの少し下に、斜めの線を引きます。ジュースは、キャップの少し下に、まっすぐの線を引きます。水は、まったく線を引きません。線は少し盛り上げます。

このアイデアの予想

たぶん、みんなに使いやすい、分かりやすい、見分けやすい、と思ってくれると思います。



《入賞》ユニークで夢のあるアイデア賞

飛行機ベッド

清水優太(しみずゆうた)さん

(静岡県立浜松視覚特別支援学校 小学3年生)

朝起きたら夢のところに連れて言ってくれるベッド。ベッドの大きさは大人2人が寝られるぐらい。ベッドのはるか上にはプロペラがついている。怖い夢を見た時には、こわくないところへ連れて行ってくれるが、どこに連れて行ってもらえるかは分からない。2人で寝た時は、どちらかの夢のところに連れていってくれる。ベッドの真ん中にはボタンが3つついている。一つ目のボタンはベッドの色が変わるボタンで、青、黄色、ピンク、黄緑、緑の5色にベッドの色が変わる。二つ目のボタンは、目覚ましボタンで1回押すと4時半、2回押すと5時、3回押すと6時、4回押すと6時10分に起こしてくれる。三つ目のボタンは押すと絶対に夢を見られるようになるボタン。

色が変わると同時にドラゴンボールの曲が流れる。

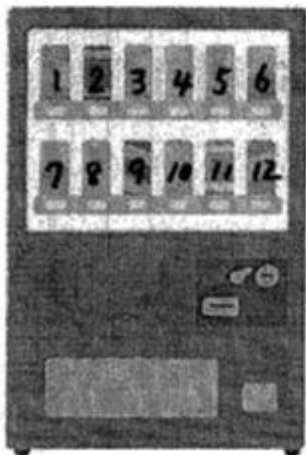
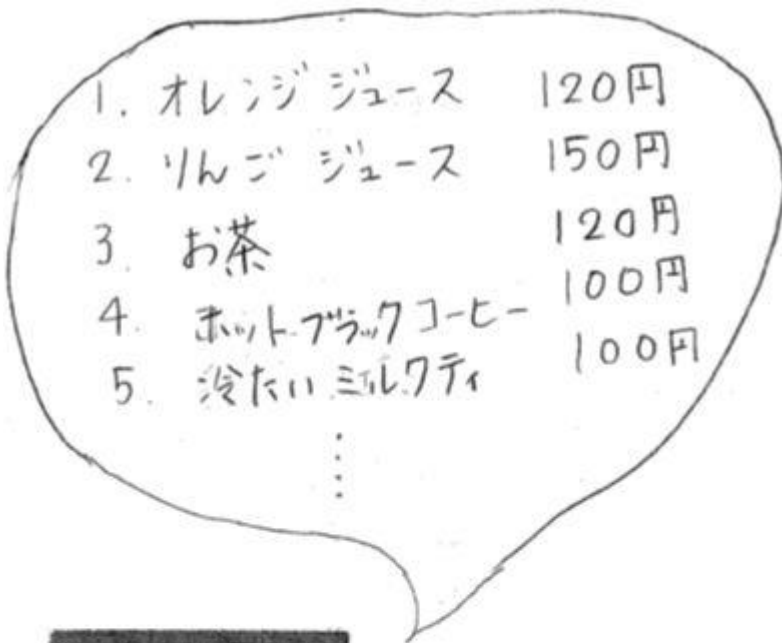
《入賞》実現可能なアイデア賞

しゃべる自販機

浜松盲学校3Bチーム(はまつもうがっこうさんびーちーむ)
(静岡県立浜松視覚特別支援学校 高校3年生)

お金を入れると順番に番号、名前、値段を言ってくれる自動販売機です。

自動販売機は自分たちにとってロシアルーレット。番号、名前、値段を読み上げてくれるば、バリアフリーの自販機に早変わり、これで飲みたいときに飲みたい物を買えます。



しゃべる自販機

《入賞》ユニークなアイデア賞

どこでも点字ブロック出現白杖

太田博登(おおたひろと)さん

(鳥取県立鳥取盲学校 小学5年生)

この「どこでも点字ブロック出現白杖」は、点字ブロックがないところで、白杖を使うと、おいたところに点字ブロックが現れる白杖です。つまり、普段白杖を使って歩いている人が、この白杖を使えば、点字ブロックがあるところだけでなく、ないところも点字ブロックの上を歩くことができます。

《入賞》実現可能なアイデア賞

さわれるQRコード

萩野海羽(はぎのみう)さん

(高知県立盲学校 中学3年生)

いろいろな場所やモノにQRコードがあると、スマホを使ってすぐに情報が得られます。しかし、どこに印刷されているかわからないので、QRコードに凸凹があれば見つけやすいです。

QRコードはたくさんの文字情報が登録できるため、場所やモノの説明のために、印刷されていると、とても便利です。スマホで読み取れば音声で聞くことができるので、眼の前にあるのは何か？自分が向いている方向には何があるのか？QRコードがあることが分かれば、一人で知ることができます。

ともだちたくさんできるかなあ

徳田健太郎(とくだけんたろう)さん

(石川県立盲学校 小学6年生)

点字に打った文章を点訳の機械に入れると墨字に変換してくれる。

また、逆に墨字を点字に変換してくれる機械があると見えない人も、見える人も一緒に文章をみることができる。

一般の部 《最優秀賞》

手袋になるハンドクリーム

近藤貞二(こんどうていじ)さん

(愛知県丹羽郡)

寒い日には手袋をして外出したいもの…。けれどお金や細かいものの出し入れには手袋をしたままでは煩わしい。携帯電話の操作もしにくい…。という視覚障害者は多いはず。

このハンドクリームは手のケアはもちろんですが、手の保護や防寒といった手袋の機能があります。クリームですので触覚を妨げることなく手の保護と防寒ができるのが特徴です。

特に視覚障害者は指先の触覚による情報が大切ですので、手袋をすると細かい作業がしにくくなりますが、これはクリームですので触覚を妨げることなく手袋効果を得られます。

例えば寒いときの小銭やお札の扱いも普段通りにできますし、点字だって手がかじかんで読めないってことはありません。携帯電話の操作やスマホなどのタッチ操作も問題なくできます。また防寒の他に簡易な保護機能もありますので、軽作業や庭の草取りくらいならこのクリームを塗って行えば手の保護ができて安心です。

欠点としては、ファッション性に欠けるところでしょうか。

《優秀賞》

タッチパネルエイド

伊藤慶昭(いとうよしあき)さん

(神奈川県横浜市)

全盲または弱視の人が、街頭に設置されている音声ガイドのないタッチパネルを操作することを可能にするものです。また、ボタン式の飲料などの自動販売機についても、自分で商品が選択できる可能性があります。

指サックのようなかたちをしています。指の腹の部分にカメラがあります。音声は本体またはbluetoothイヤホンから聴きます。材質はタッチペンと同じようなものとし、製品をはめたままタッチパネルに触ると動作します。

カメラはあえて視野を狭くし、指の下の文字だけを読むようにします。

ユーザーはまずiPhoneなどで画面の全体を読み、概要を把握します。次に本機を指にはめ、パネルから1センチほど指を浮かせて上下左右に動かします。すると指の下の単語を読みます。望む項目が見つかったら指を下してタッチします。操作の結果はiPhoneなどで全体を読んで確認します。

この製品は、どこにどのようなことが書かれているかを知ることができます。

したがって、図ではなく文字で表現されていれば、ボタン式の飲料などの自動販売機についてもほしい商品を自力で買うことができるようになります。印刷されている文章がどのようなレイアウトで書かれているかも把握できます。

最近では修理完了届などのサインをタブレット上に書くようになっていることがありますが、その場合でも書く位置を把握し、この製品を筆記具にしてサインすることができます。

ホテルや会館など普段使い慣れないところでも、エアコンなどのボタンの機能を知ることができるため、自力で操作できる可能性があります。

電池については、交換しなくてよいように充電池を内蔵し、USBケーブルで充電します。

ATMなどのなかには、タッチパネルとは別に最低限の操作をボタンと音声ガイドで行えるようにしているものもありますが、広く普及しているとは思えません。

一方タッチパネルの利用範囲はどんどん広がっています。タッチパネルで注文する飲食店では店員の数も少ないため操作の代行を依頼することは難しいです。コンビニでは、たとえ振り込み用紙で送金したとしても、客は画面にタッチして「承認」ボタンを押すことを求められています。

さらに、集合住宅の中には宅配ロッカーが備えられていて、エントランスなどあまり人が通らないところで、タッチパネルを操作して受け取り手続きをしなければならない場合があります。製品が開発できたとしても次のような課題があります。

ピクトグラフで書かれている場合読むことができない

また、iPhoneなどを補助的に使わなければならないのが煩わしいです。本製品に、「全体読み」「上または下の文字読み・単語よみ・行読み」といった読み上げモード変更機能を加えて、単体で利用できることをめざすべきだと思います。

《優秀賞》

クックeye～eyeちゃん～

松浦佑美(まつうらゆみ)さん

(愛媛県松山市)

誰でも料理をしますよね。しかし、私たちは全体や一部を見ることができないため、レシピや形を見ることが難しいです。そんな時は、料理お助けアプリ「クックeye」があれば大丈夫です。「今日何作ろう」「これ作りたいけど、どう作るの?」「これ、切り方はどうするの?」といった疑問や悩みも解決することができます。

このアプリの魅力は、5つあります。

一つ目は、アプリの操作方法が簡単ということです。もし使い方を忘れてしまっても、AI機能が付いているために使えなくなることはありません。

二つ目は、たくさんのレシピがあるため、料理のレパートリーが増やせます。レシピの一つ一つの過程に写真があるため、失敗することも少ないことです。

三つ目は、朝など時間がないときは、食事もついつい適当になってしまいがちだと思います。しかし、「子供には、ちゃんとしたものを食べさせたい。」「今日は、大事な日だから途中で集中力を途切れさせたくない。」と思う時でも、簡単で時間もあまりかからず、ちゃんとしたもののレシピもたくさんあることです。

四つ目は、「手作りでお菓子を作りたい。」と思った時、気軽に挑戦することができることです。

五つ目は、最近アプリでもお金のかかるものが多くなっていますよね。しかし、この「クックeye」は無料なので安心して使えるということも魅力の一つです。



《入賞：アイデア賞》

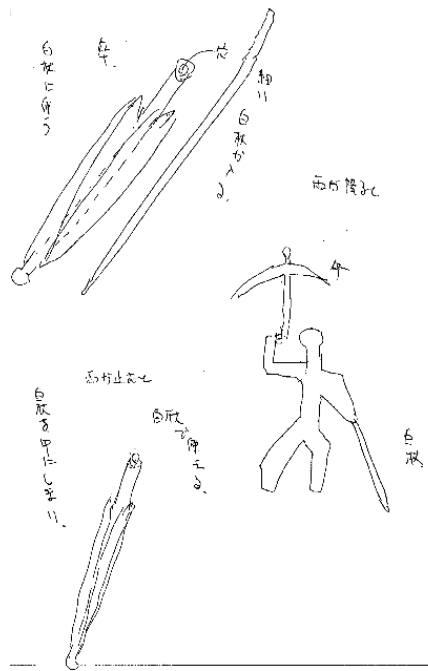
白杖型傘

加藤寛(かとうひろし)さん

(長野県松本市)

傘の中に白杖が入っていて、雨の日に白杖と傘の両方を用意しなくて良い。

雨の日の外出は大変なので、傘と白杖が一体になっていると便利かな。



折りたたみ定規NN

真貝徹志(しんがいてつし)さん

(神奈川県川崎市)

いままでの触読メジャが使いづらいと思っているあなたへ。

携帯性抜群！ 直感的にもものサイズを計れる！

細かい隙間なども計測可能。(私はこれでウクレレの弦高を 図ってます。)

目盛りは全部にいらない。必要な部分にだけ目盛りをつけて コストパフォーマンスも高い(たぶん)

1mm単位の目盛りを印刷して一般の方にも使えるようにもできる。

<見本>

市販の10cmピッタリの定規を5枚ダクトテープでジャバラにはりつけています。

最後の1枚に点字テープで1cm単位で触読用の目盛りをつけています。

たぶん見た目はわるいんだろうなあ。



《入賞：アイデア賞》

コロコロ・スイスイ・楽々の白い杖

西山金一(にしやまきんいち)さん

(新潟県長岡市)

このアイデアでは、白杖の先端を常に路面に着け、ベアリングで路面を撫でるように探りながら進むことができます。そのため細かな凸凹、点字ブロック段差を手元に伝わる振動で敏感に感じ取ることができます。段差やホームの縁の位置もはっきりと感じ取ることができるので、転倒、転落の防止に役立ちます。杖を垂直に立てるとボールは回転しない位置にあり、必要に応じて体を支えたり、立てかけることもできます。



フットペダル付き拡大読書器

橋本隆夫(はしもとたかお)さん

(三重県多気郡)

据え置き型の拡大読書器に、フットペダルが2つ付属します。フットペダルは前後左右に傾けたり、クリック出来ます。傾けてもバネの力で元の状態に戻ります。前後に傾けた後は元の位置に戻さないと左右に傾けられません。つまり右上や左下などには傾けられません。フットペダルAを前後に傾けると拡大率の変更、左右に傾けるとコントラストの変更、クリックする度に配色(カラー、白黒、反転など)が変更出来ます。フットペダルBを前後左右に傾けるとXYテーブルを移動させることが出来ます。なお拡大読書器本体とフットペダルはワイヤレス接続なので、配線を気にせず、好きなところに置くことが出来ます。拡大読書器本体にも操作ボタンはあるため、どちらでも操作可能です。

フットペダルを使うことでテーブル上から手を離さず読書や書き物に専念することが出来ます。

講 評

審査委員長講評

感想

社会福祉法人日本点字図書館 理事長 たなか てつじ 田中徹二

今年もたくさんの応募があった。いつものことだが、視覚障害者の身近かな出来事の中で困ることが中心になっていた。

盲学校の部では、小学部の児童からの応募が目立った。それだけに夢のようなものが多く、とても実現不可能だと思われる中で、最優秀賞になったのは、平山めぐみさんだった。らくらくルーペという具体的なアイデアで、小学部1年生にしては、自分が困っていることを率直に提案していた。

一般の部では、近藤貞二さんの「手袋になるハンドクリーム」が最優秀賞だった。寒い冬に、手袋をしていると視覚障害者は困ることが多い。触っても何がどうなっているかわからないからだ。日本点字図書館用具事業課では、人差し指の先端が開く手袋を売ってほしいへん好評を得ているが、それに変わるものとしてのアイデアだ。実現しそうな感じも大いに評価された。

審査員講評

発想は無量大

社会福祉法人日本視覚障害者団体連合 事業部長 あいさか ただし 逢坂 忠

今回初めてとっておきのアイデアコンテストの審査に係わる機会をいただきました。私からは盲学校の部のアイデアを審査しての感想を述べたいと思います。

「飛行機ベッド」や「食事中注意ロボット」など、とても大人には思いつかないような夢のあるアイデアが多かったように感じました。

また、「らくらくルーペ」や「注ぐ量を調整できるポット」のように、日常の生活でこまったことから生まれたアイデアも多く、その着眼点と柔軟な発想に感心し感動しています。

アイデアは尽きることなく無限！

文部科学省初等中等教育局初等中等教育視学官(併)特別支援教育調査官 あおき りゅういち 青木隆一

「目が見えない・見えにくい私だから考えついた“とっておきのアイデア”コンテスト」も第4回を迎えた。すっかり定着した感がある。しかし正直なところ、もうアイデアは出尽くしてしまい、応募は少ないのではないかと考えていた。ところが、私の予想に反して今回も多くの応募があった。審査の過程で「まだそんなアイデアがあったのか！」と唸ったことも。人間の創造力、便利を追求する探究心は無敵だったのだ。コンテストゆえ、どうしても順位は付くが、全応募作品にエールを送りたい。第5回に向け、無限のアイデアを創造してほしい。

アイデアを実現するには

サイトワールド実行委員会／株式会社ラビット 代表 あらかわ あきひろ 荒川明宏

いろいろなアイデアを見て、「これすぐに実現してしまうかも」と思う作品が多くありました。しかし、残念なことに、マーケットの問題、製造コストの問題などでなかなかアイデアを実現するには大きなハードルがあると感じました。「夢」ではなく、すぐにできそうなだけに、とても歯がゆい思いで作品を見させてもらいました。スマホやAIから離れたアイデアがもっとあると楽しいのにと、個人的に感じました。

アイデアコンテストを「はじめの一步」に

一般財団法人製品安全協会 理事 かなまる じゅんこ 金丸淳子

“こんなのがあったら便利なのにナ”、応募作品には今回もとてもユニークな、また、確かにあったらいいナと思われるアイデアが沢山ありました。あなたが思いついたことを発表・表現していくことで、必ず誰かの五感に触れそれが起爆剤となって実現していくのです。例えば115年前、ライト兄弟が動力飛行に成功、その後、触発された人達が更にアイデアを出し合いながら、夢とされていた民間人でも宇宙旅行が実現しようとしているものです。明日を信じて、どんどんアイデアを表出しましょう！

無限の可能性！夢のあるアイデアがいっぱい

全国盲学校長会長／東京都立文京盲学校長 きむら としお 木村利男

「目からうろこが落ちた」「なるほどなあ～」「こんなものがあっていいのになあ～」と、アイデア作品を見ていろいろと思いました。日常生活において、目が見えない、見えにくい方々にとって便利なグッズがあれば、快適な生活が送れます。私自身初めての審査で、たくさんの夢のある応募作品に心がワクワク踊りました。これからのAI時代には、今回のアイデアが製品化されることでしょう。まさにAI DEA(アイデア)がいっぱいです。

あふれるアイデアで社会を変えよう

くにまつ りつこ
東京都立小金井特別支援学校長 國松利津子

第4回目のアイデアコンテスト審査会も大変楽しみでした。皆さんの夢あるアイデアで、人々の生活がさらに豊かになり社会が変わっていくでしょう。あったらいいな、私もほしいなという素敵な作品がたくさんありました。そして、夢で終わらず実現可能な時代になってきているのだなということを感じるようになりました。実現不可能が可能になっていく時代だからこそ創造力を働かせもっともっと新しいアイデアを出していくことが大切であると思いました。これからのアイデアコンテストも楽しみでなりません。

アイデアコンテストで私が鼓舞されました

くれまつ たけお
社会福祉法人視覚障害者支援総合センター 理事長 樽松武男

年齢を重ねてくると空想とか、ユメをみたりとか、こうなったらイイとか、アイデアを出すことが少なくなってきました。毎年、「アイデアコンテスト」で100件以上のユメ・アイデアに目を通して「よし私も負けないようにアイデアを出してみよう！」と触発・鼓舞されています。ちょっと若返りました。ありがとうございました。
応募されたアイデア全部に「感謝賞」を贈呈します!!

楽しさ・可愛らしさと詳細・精巧の秀逸さ

もがみ りゅうへい
一般財団法人日本児童教育振興財団 業務執行理事 最上龍平

今回は、特に盲学校の部で、日々切実に感じていることを「夢」として楽しく、そして可愛らしく書かれた作品が多かったこと。一般の部では、「実現可能性」の可否を検討するに値するほど、詳細かつ精巧な作品があったこと、を強く感じました。共生社会を目指すべく、生徒さん達には実現性の可否ではなく、さらにさらに「夢」を持ち続けていただきたいと願っています。また受賞作の秀逸さを見ますと、提案されたアイデアの実現に向けて、本コンテスト関係者の皆様に「課題」が提出されたとも言えます。

著作権
無断転載禁止

主催／

社会福祉法人 日本点字図書館
公益財団法人 共用品推進機構

後援(50音順)／

一般財団法人 家電製品協会
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
全国盲学校長会
公益財団法人 テクノエイド協会
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
公益社団法人 日本包装技術協会
社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会
社会福祉法人 日本盲人福祉委員会

協力／

一般財団法人 日本児童教育振興財団

発行 令和元年11月3日

目が見えない・見えにくい私だから考えついた“とっておきのアイデア”コンテンツ事務局
社会福祉法人 日本点字図書館 169-8586東京都新宿区高田馬場1-23-4 Tel 03-3209-0241(代)
公益財団法人 共用品推進機構 101-0064東京都千代田区神田猿樂町2-5-4 OGAビル2階
Tel 03-5280-0020